

令和3年度 病害虫発生予察注意報第1号

令和3年4月21日
静岡県病害虫防除所長

病害虫名：うどんこ病、赤さび病
対象作物：小麦

1 注意報の内容

- (1) 発生が予想される地域：県内全域
- (2) 発生が予想される時期：4～5月
- (3) 発生程度：多い
- (4) 防除時期：4～5月

2 注意報発表の根拠

- (1) 4月中旬に行った小麦の巡回調査の結果、うどんこ病(図1)の発病株率は54.8% (平年5.5%)、発生面積率は100% (平年18%)と平年よりも多かった。また、赤さび病(図2)の発病株率は17.2% (平年0.2%)、発生面積率は60% (平年5%)と平年よりも多かった(表1)。
- (2) 両病害とも多発すると、収量・品質が低下する。
- (3) 両病害とも暖冬で春先に雨が多いと多発する傾向がある。気象庁の1か月予報(4月17日～5月16日)によると、降水量は平年より少ないが、気温は平年より高いため、両病害の発生を助長すると考えられる。

3 防除方法

- (1) 発生を確認したら速やかに薬剤防除を実施する(表2、3)。
- (2) 両病害とも下位葉から上位葉に向けて進展するため、株元まで薬剤が届くように散布する。
- (3) うどんこ病の第一次伝染源は前年の被害残渣で越冬した病原菌である。よって、前年多発したほ場では特に発生に注意する。
- (4) 赤さび病の第一次伝染源は前年作で脱粒し、ほ場に落下した穀粒に感染して越冬した病原菌である。よって、前年に発病が確認されたほ場では特に発生に注意する。
- (5) 本県の奨励品種である「きぬあかり」はうどんこ病に弱く、また「イワイノダイチ」、「農林61号」より赤さび病も発生しやすいため、発生に注意し、防除を徹底する。
- (6) 薬剤等の詳細については静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準(<http://www.s-boujo.jp>)を確認する。また、不明な点は病害虫防除所、農林事務所等指導機関に問い合わせる。



図1 コムギうどんこ病の被害の様子



図2 コムギ赤さび病の被害の様子

表1 コムギうどんこ病及び赤さび病の発生状況

調査地域	調査時期	病害虫名	発病株率 (%)	発生面積率 (%)
中遠	4月12、13日	うどんこ病	54.8	100
			(5.5)	(18)
		赤さび病	17.2	60
			(0.2)	(5)

() 内は平年の値 (過去10年間の平均値) を示す

表2 コムギうどんこ病に対する主な防除薬剤¹⁾

商品名	使用方法	希釈倍数使用量	使用時期	使用回数	FRACコード ²⁾
イオウフロアブル ³⁾	散布	400倍	-	-	M2
石灰硫黄合剤 ³⁾	散布	40~140倍	-	-	
チルト乳剤 2.5	散布	2000~3000倍	収穫3日前まで	3回以内	3
ワークアップフロアブル	散布	2000倍	収穫7日前まで	3回以内	
トリフミン水和剤	散布	1000~2000倍	収穫14日前まで	3回以内	
ストロビーフロアブル	散布	2000~3000倍	収穫14日前まで	3回以内	11
トップジンM水和剤	散布	1000~2000倍	収穫14日前まで	3回以内 (但し、出穂期以降は2回以内)	1

1) 静岡県農薬安全使用指針・農作物病害虫防除基準 (<http://www.s-boujo.jp/>) に掲載されている薬剤から抜粋 (令和3年4月9日時点JPP-NET配信データによる)。

2) 薬剤を作用機構ごとに分類した番号。薬剤耐性菌の発生を未然に防ぐためには、作用機構の異なる剤をローテーションで使用する必要がある。

3) 有効成分が硫黄の剤は予防散布が中心であるため、既に発生が確認されている場合は他剤を使用する。

表3 コムギ赤さび病に対する主な防除薬剤¹⁾

商品名	使用方法	希釈倍数使用量	使用時期	使用回数	FRACコード ²⁾
イオウフロアブル ³⁾	散布	400倍	-	-	M2
サルファーゾル ³⁾	散布	400倍	-	-	
石灰硫黄合剤 ³⁾	散布	40~140倍	-	-	
チルト乳剤 2.5	散布	1000~3000倍	収穫3日前まで	3回以内	3
アフェットフロアブル	散布	2000倍	収穫14日前まで	3回以内	7
ストロビーフロアブル	散布	2000~3000倍	収穫14日前まで	3回以内	11

1)、2)、3)の注釈については表2に記載。

問い合わせ先：静岡県病害虫防除所 (TEL: 0538-36-1543)